

保護者の皆様

吹田市立吹田第六小学校
校長 田淵 久美子

令和5年度「学校教育診断アンケート」結果分析について

向春の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、12月に実施しました学校教育診断アンケートにつきまして、ご報告させていただきます。保護者の皆様からのご回答率は今年度も約90%と、高い回答率をいただき感謝いたします。

今年度もご報告の前に、嬉しいお話を2つお伝えしたいと思います。

1つめは、放課後（吹六小は火曜水曜木曜）運動場や教室を活用して、子どもたちが安心安全に異学年での交流をしたり、自主的にのびのびと活動できる居場所づくりに、ご尽力いただいている地域のボランティア「フレンドさん」（通称）のお言葉です。

「子どもたちが成長している姿がよくわかります。5年生の子たちが低学年の宿題をみってくれたり、遊んでくれたりしてくれて、低学年の子どもたちも嬉しそうです。5年生もすごく優しくてしっかりしてきて頼もしいです。」

2つめは、他市にお住いの方からの電話です。

「吹田市に引っ越しを考えているのですが、吹田市内の小学校のホームページをいろいろ見ていると、吹田第六小学校に子どもを通わせたいと思いました。吹田第六小学校のことを詳しく教えてください。」

子どもたちや学校のことを褒めていただいたことを素直に嬉しく感じております。今後も精進してまいります。



以下に集計・分析結果をお伝えするとともに、いただきました貴重なご意見を真摯にうけとめ、次年度への改善のため、教職員一同さらなる努力を積んでまいりたいと存じます。

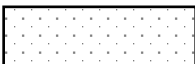

今年度は、より分かりやすくするために、帯グラフから円グラフに改良しました。

【回答の仕方】

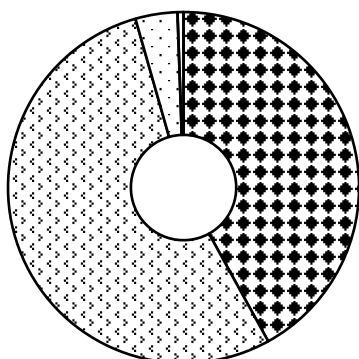
低学年（1年2年3年）の回答は2択 はい:  いいえ: 

高学年（4年5年6年）と保護者の回答は4択

そう思う:  どちらかと言えばそう思う: 

どちらかと言えばそう思わない:  そう思わない: 

保 学校教育目標や教育方針を知っている



吹田第六小学校の根幹となる「学校教育目標」や「教育方針」を保護者の皆様にご存知いただき、理解していただくことは、私に与えられた使命の一つであると、心得ております。この項目に関して、本校に赴任してからの5年を振り返ってみます。（肯定的回答率）

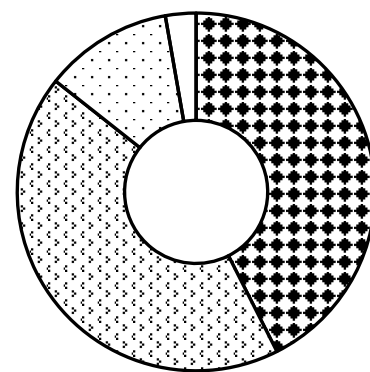
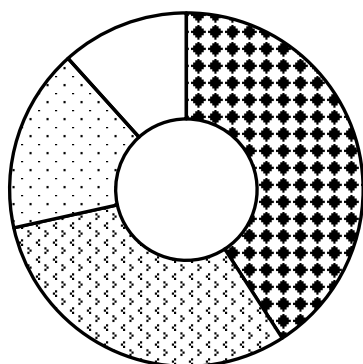
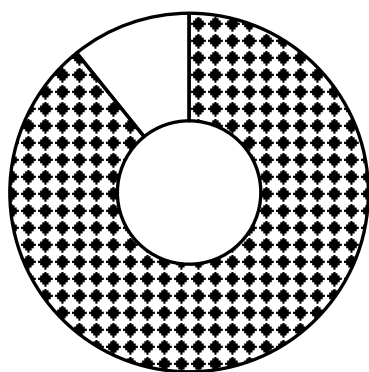
令和元年度78% 令和2年度84%
令和3年度88% 令和4年度88%
そして、令和5年度（今年度） 96%

数字からもわかるように、保護者の皆様とともに、吹六小のめざすところや吹六っ子のめざす姿共有できていること、大変嬉しく感じております。

低 学校へ行くのが楽しい

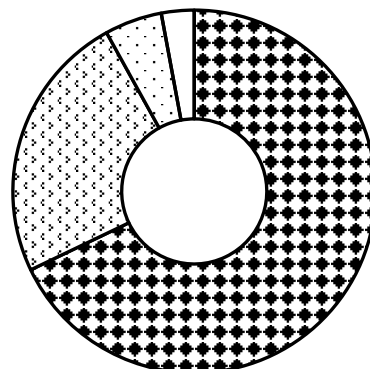
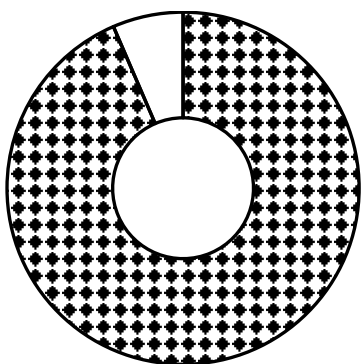
高 学校へ行くのが楽しい

保 子どもは学校へ行くのを
楽しみにしている



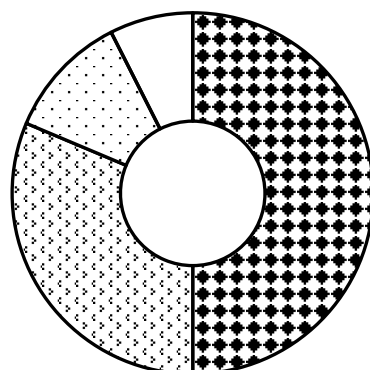
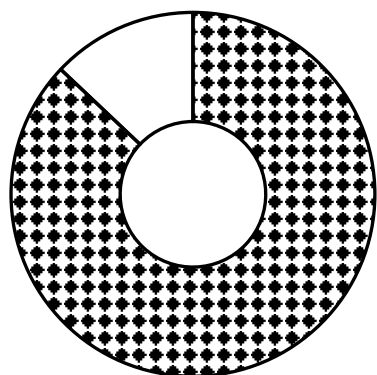
低 友だちといっしょに楽しく遊んでいますか

高 友だちといっしょに楽しく遊んでいる



低 先生や友だちや学校にきた人にあいさつを
していますか

高 先生や友だちや来校者にあいさつをしている

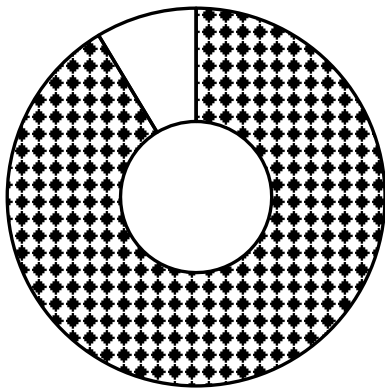


「学校へ行くのが楽しい」の設問では、低学年が9割弱、高学年が7割強、保護者の皆様からは、8割強という肯定的回答をいただきました。また、低学年高学年ともに約9.5割の子どもたちが「友だちといっしょに楽しく遊んでいる」と回答していることは、大変嬉しく思います。友だち関係を築くことは、子どもたちにとって、重要なことです。ともに学び、ともに遊ぶことを通して、関係づくりを築いてほしいと考えます。

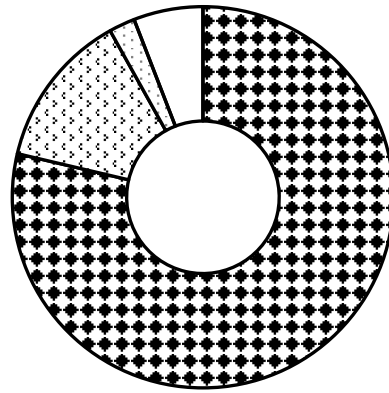
コミュニケーションは、あいさつからと、伝えても過言でないほど、あいさつができるか否かで、人間関係づくりに左右してしまうことは、大人になれば痛いほどわかります。子どものうちから習慣にしてほしいと思います。気持ちの良いあいさつは、する方もされる方も心が明るく晴れ晴れです。今年度は、低学年9割弱、高学年8割強の子どもたちが、あいさつをしていると認識しています。



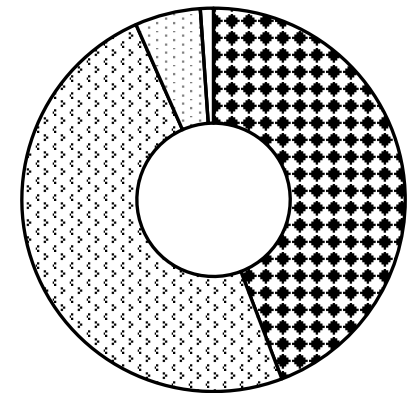
低 運動会、音楽会などの学校行事は楽しい



高 運動会、音楽会、遠足、宿泊学習などの学校行事は楽しい



保 子どもは特別活動(学校行事・児童会行事・清掃活動・校外学習・体験学習・宿泊学習等)を通して、自主性や実践力が育ってきている

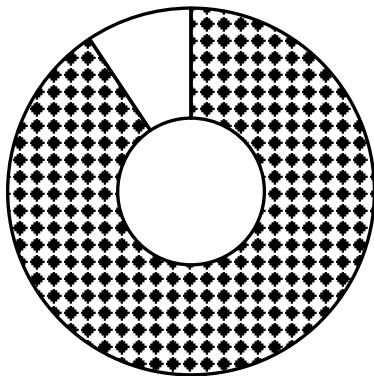


低学年・高学年ともに9割以上の肯定的回答です。保護者の皆様からも、9割以上の肯定的回答をいただき、大変嬉しく感じております。

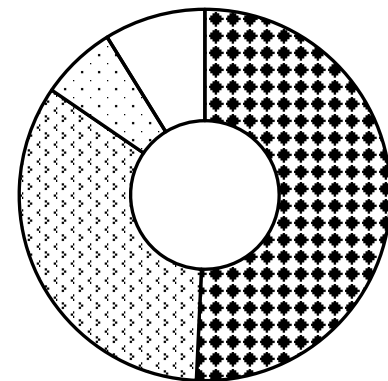
子どもたちが自分たち自身で、楽しみながら行事をつくりあげていく教育活動(プロセス)を通して、子どもたちの資質・能力を育てています。子どもたち自身でつくる、とは言っても、必ず大人の力を必要とする場面があります。そんなときに、「先生たち(大人)の力を借りよう」と、考えだし、人を活用しようとする能力が求められます。さらに、「手伝ってほしい」「助けてほしい」「教えてほしい」と、アウトプットできることも大切です。

また、吹六っ子にとって、体験活動は大きな成果を上げています。今年度、3年生4年生は「花いっぱいプロジェクト」をスタートさせ、種から花を育てています。春になって花が咲けば、地域の施設(公民館・保育園・児童センター等)に届け、花を育てることを繋げていき、吹六の地域ごと、花いっぱいにしていこう! そんなプロジェクトです。このような体験活動を通して、知識や技能とともに、達成感や自己有用感を育てています。

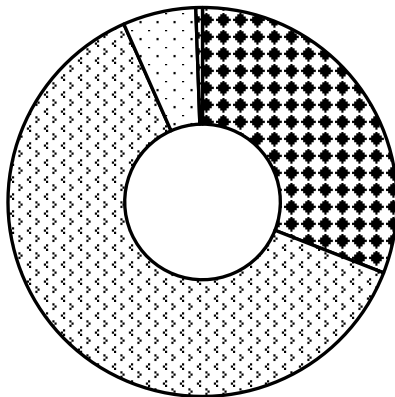
低 「思いやり」について教えてもらっていますか



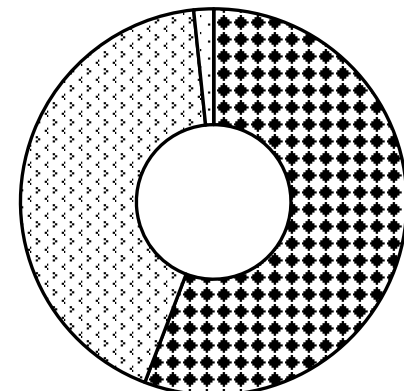
高 「思いやり」について教えてもらっている



保 学校は、一人ひとりを大切にして、思いやりの心を育てている



保 重点取り組みである多様性教育は、大切だと感じる

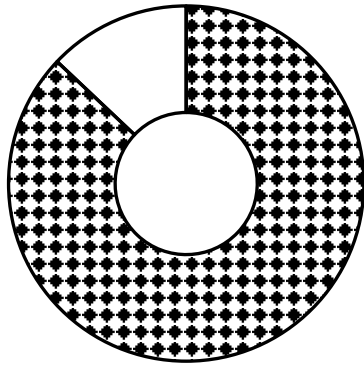


低学年は9割強、高学年は9割弱の肯定的回答です。保護者の皆様からも9割強の肯定的回答をいただいています。また、「多様性教育」の設問においては、98%という肯定的回答をいただきました。

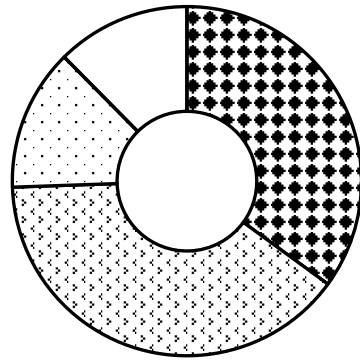
最近、ニュースやメディアで、「多様性」という言葉を聞きますが、吹六小保護者の皆様には、アンケート結果からも明確のように、すでに多様性教育の大切さが、ご理解いただけていると承知しております。

今後も多様性教育の充実を図るとともに、本校のめざす子ども像の1つである『思いやりの心をもつ子』の育成に力を注いでいきます。

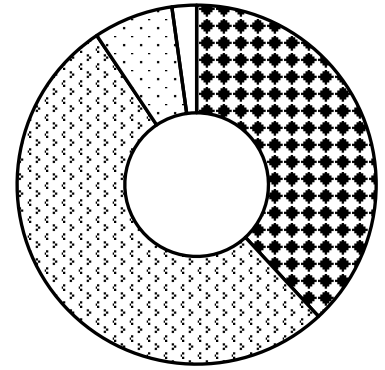
低 学校の勉強はわかりやすいですか



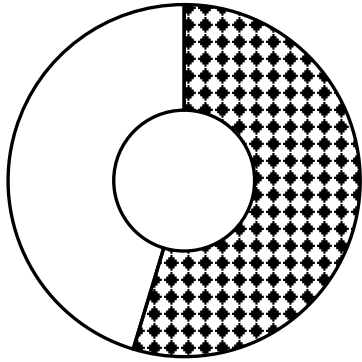
高 先生は教え方に色々な工夫をしているので授業がわかりやすい



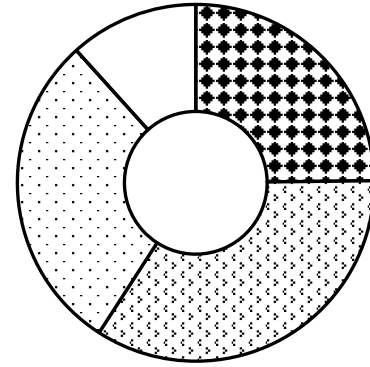
保 教職員は分かりやすい授業・工夫された授業づくりに努めている



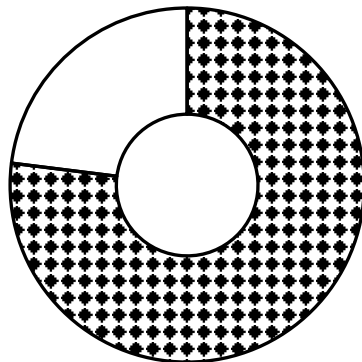
低 授業中、発表することが多いですか



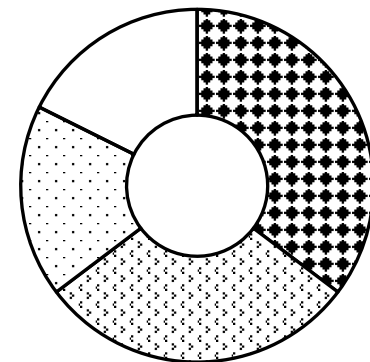
高 授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある



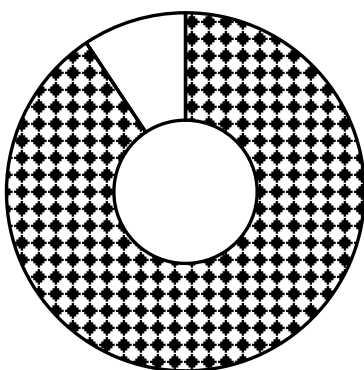
低 授業でわからないことについて、先生に質問しやすいですか



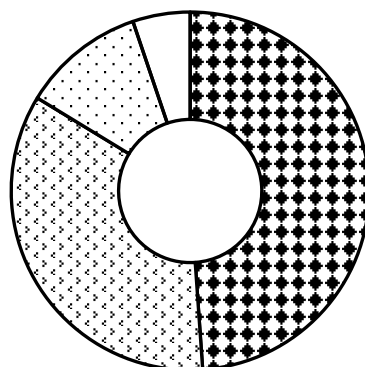
高 授業でわからないことについて、先生に質問しやすい



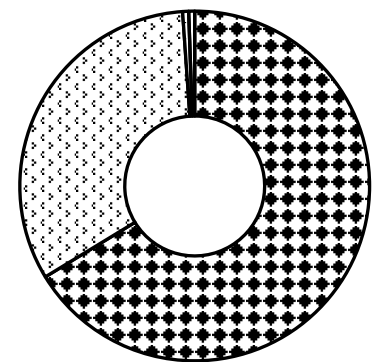
低 自分から学ぼうとしていますか



高 自ら学ぼうとしている



保 重点取り組みである、言語能力の向上は大切である

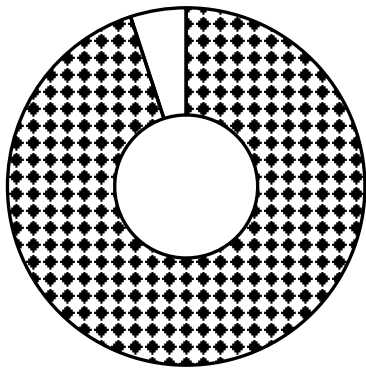


上記のグラフは、授業中での直接的なことをまとめたものです。ここでは課題について取り上げます。

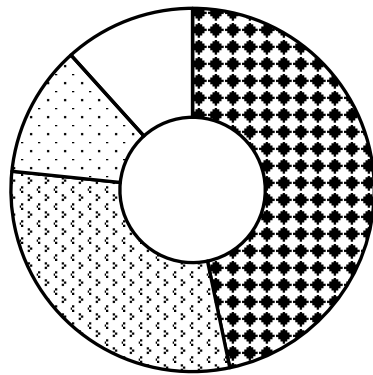
昨年同様、低学年「授業中、発表することが多いですか」高学年「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある」の設問に課題があると感じます。昨年と繰り返しになりますが、挙手をして発表することがすべて良いとは考えておりません。一人ひとりの個性やその時の子どもの体調も影響します。ただ、アウトプットする力は必要です。コミュニケーション能力も大切です。保護者の皆様からも、ほぼ100%の肯定的回答をいただいている「言語能力」の大切さは、社会で生きている私たち大人は十分すぎるほど理解しています。だからこそ、子どもたちへは、「生きる力」として「話すこと」「発表すること」「まとめること」「プレゼンできること」などの資質・能力をつけたいと思います。具体的な対策は以下の通りです。

- ① 1年生から、授業の中で発表する機会を増やし、発表しやすい環境をつくります。(あたたかい聴き方・やさしい話し方の充実等)
- ② ペア学習やグループ学習、調べ学習など、友だちとともに「学び合う」「高め合う」取組みを増やし、学級・学年を超えた異学年交流学習の場も設定します。

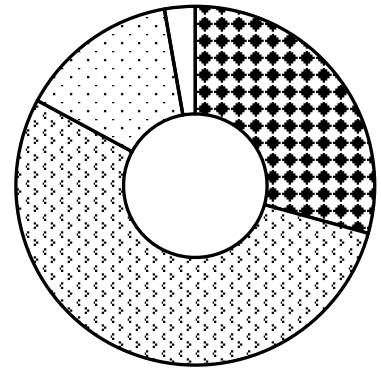
低 先生は、わたしたちの話を聞いてくれますか



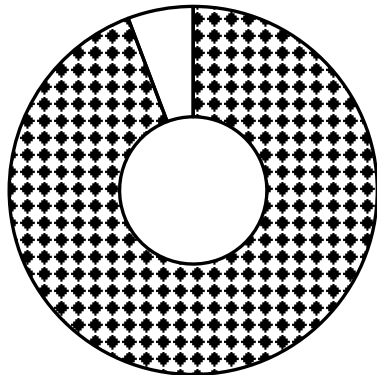
高 先生は私たちの意見や話を聞いてくれる



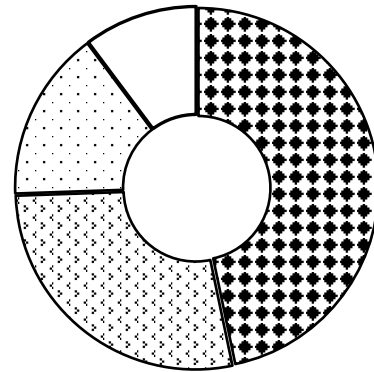
保 教職員は、子どものことを理解している



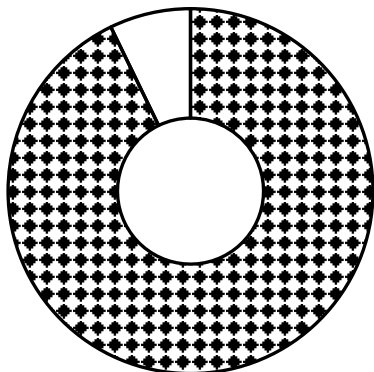
低 先生は、自分がかんばったことをわかってくれますか



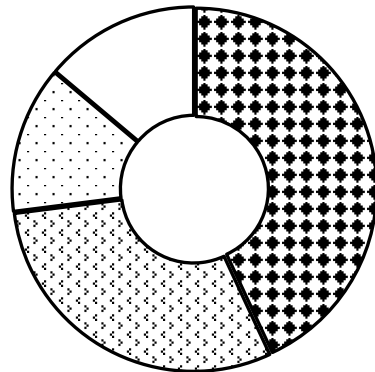
高 先生は、自分が努力したことを認めてくれる



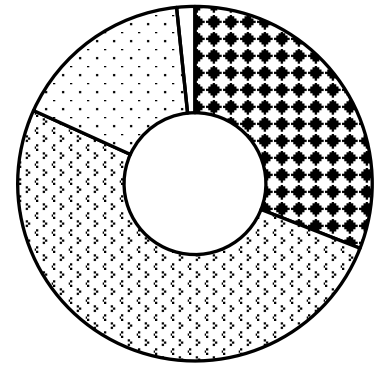
低 困ったことなどを話せる先生はいますか



高 いろいろなことを相談できる先生がいる



保 子どものことについて、気軽に教職員に相談できる



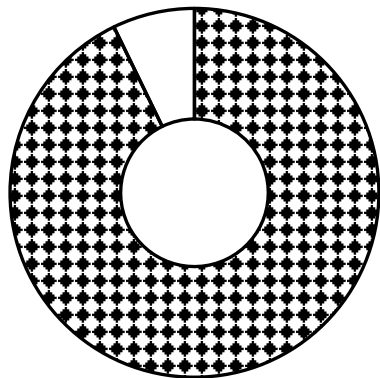
低学年は9.5割、高学年は8割弱の子どもたちが「先生はわたしたちの意見や話を聞いてくれる」「先生はがんばったこと、努力したことを認めてくれる」と回答しています。今後も一人ひとりの子どもを大切に丁寧な対応を継続していきます。

「いろいろなことを気軽に相談できる先生がいる」の肯定的回答は、低学年は9割強、高学年は7割強です。年齢や身体の成長とともに、心も成長していくでしょう。だから、喜びや悲しみ、楽しさや辛さも学年が上がるほど、深くなっていると感じています。大人からみれば、些細なことであっても、当該の子どもにとっては重大なことかもしれません。この設問は100%をめざすべきものだと痛感しておりますので、高学年の7割強の回答は課題であると、真摯にうけとめます。

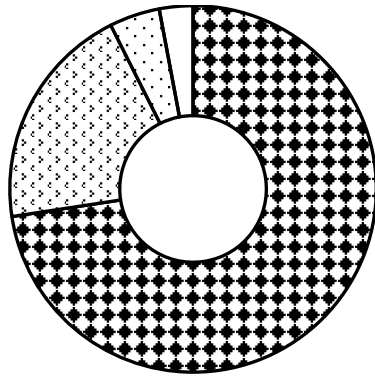
「こころとからだの連絡帳」(デイケン)の活用も含め、今後はさらに、子どもたちがどの先生でも気軽に声をかけやすい雰囲気づくり、環境づくりに努めます。



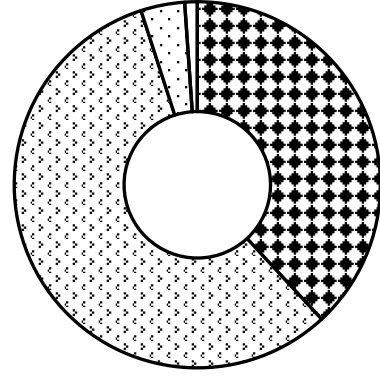
低 いじめは、してはいけないこと
だと思いますか



高 いじめは、どんな理由があっ
てもしてはいけないと思う



保 学校は、いじめのない
学校づくりに取り組んでいる



低学年、高学年ともに93%の子どもたちが「いじめはしてはいけない」との回答をしています。保護者の皆様からは「学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる」と、95%の回答をいただいております。

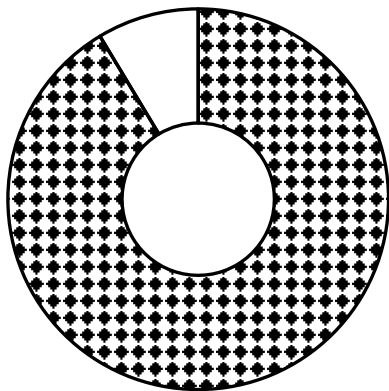
5年目となる本校の重点取組の多様性教育「思いやりプロジェクト」は、一人ひとりの違いを認め合うだけでなく、「いじめをなくす」「偏見をなくす」ことも目的の一つです。

人が感情を持つ生き物である限り、友だちとのケンカやトラブルは起こります。怒りや苛立ち、羨ましいという気持ちや妬みという気持ちも出てくるでしょう。学校で生起するいじめは、友だちとのトラブルやネガティブな気持ちから発展することが大いにあります。そのいじめを重大化させないことが大切であると考えます。そのために、本校では、いじめを認知した際には、対応を迅速かつ丁寧にし、担任だけに任せることなく「関係教職員チーム」で検討し対応する生徒指導体制を発揮しています。また、その対応や進捗状況を全教員へ共有し、改善へ向けてのいじめ防止会議も毎週行っています。

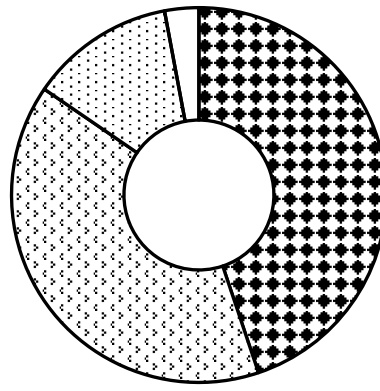
いじめ予防は、「あたたかい聴き方 やさしい話し方」の実践や道徳の授業、いじめ予防授業「TRIPLE-CHANGE (トリプルチェンジ)」 学校朝礼や児童集会、児童会行事等、多角的なアプローチを実施しています。

今後も引き続き、「アンテナを高くして、子どもたちの変化や行動に気づくこと」また、「子どもたちの気持ちに寄り添うこと」を大切にします。

低 学校(がっこう)の決まりを守っていますか



高 学校の決まりを守っている



低学年は9割以上、高学年は8.5割と、肯定的回答は高いと感じます。

子どもたちが楽しい学校生活を過ごせるよう、おうちでも一緒に考えてほしいと思い、以下は、昨年度同様のものを載せます。

子どもたちにとって「決まり」とはどんなことだと思っているでしょう。「ろくタン」(吹六スタンダード)に記載している決まりでしょうか。普段先生から発せられる言葉でしょうか。あるいは、一般的にマナーやモラルとして、やってはいけないことでしょうか。

「決まり」と聞くと、何だか固く、窮屈なイメージがありますが、「決まり」は何のためにあるのかと、考えてみましょう。

「みんなが過ごしやすくなるため」端的には『誰もが、安心・安全に過ごすため。(暮らすため)』のはずです。学校での「決まり」は、みんなが安心・安全に過ごすための好ましい行動をさします。

例えば……

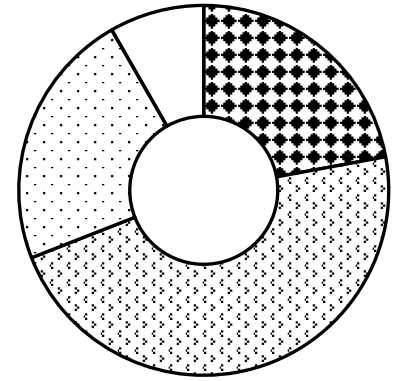
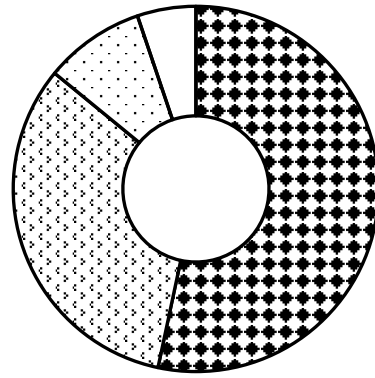
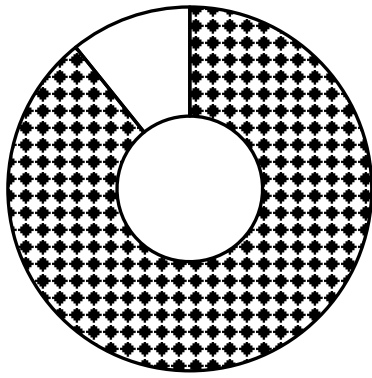
- 廊下での出会い頭でぶつからないようにするためには → 廊下や階段を歩く(走らない)
- 給食のお椀にホコリやゴミ、髪の毛が入らないように → 当番はエプロンと帽子(三角巾)を着用する

どの教員も折に触れ、マナーやモラル、ルールの話をしてきています。楽しい学校生活をおくるには、何が大切なのか、今後も子どもたちとともに考えていきます。

低 学校の宿題をきちんと
していますか

高 学校の宿題をきちんとしている

保 子どもは家庭学習(宿題・自主学
習・読書)が身についている。

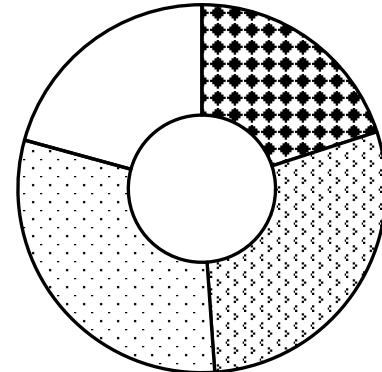
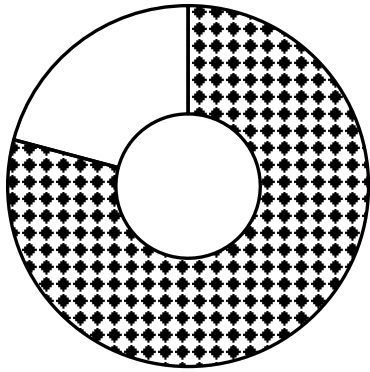


昨年度、子どもたちの認識と保護者の皆様の認識の差は14%と縮まっていたましたが、今年度は20%近くの
違いがあります。(子どもたちは9割弱、保護者の皆様は7割弱)

この差は、子どもたちの自覚と保護者が「身につけている」と感じる基準の違いがあらわれたのだと思います。
現行の学習は、指示されたことだけでなく、「自ら学ぶ」ことや「自ら選んで学ぶ」ことも重要です。今後は、宿
題の内容についても、学校で検討していく予定です。

低 図書室に、たくさん行きたいなあと思いますか

高 図書室にたくさん行きたいと思う



吹六っ子はiPadの活用は得意ですが、「活字を読む」「読書をする」ことは、大きな課題です。

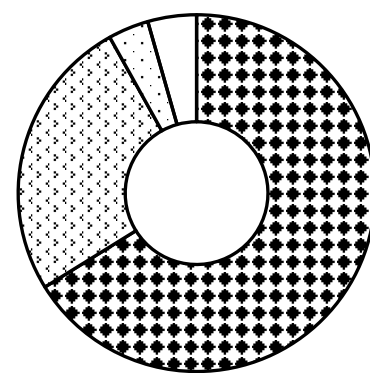
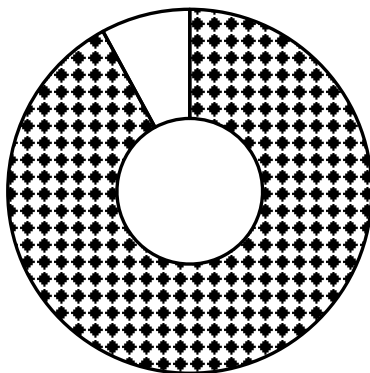
これまで、読書支援員とともに、どうすれば子どもたちが「読書をしたい」と思えるか。また、「図書室へ行きたい」と思えるようになるかを考え、様々な工夫を講じてきました。休み時間や雨天時にすすんで図書室を利用する子どもたちはいますが、相変わらず同じ顔ぶれです。

読書から得るものは、物語へのワクワク感だけでなく、知識や言語もたくさん得られ、その先に世界が広がります。悩み多き中学生は書物で勇気をもらったという話も聞きます。

子どもたちが、まず「読んでみよう」「図書室へ行ってみよう」という気持ちになる取組みを図ることと、「読み伝え」(読み聞かせ)の充実を図りたいと思います。低学年の子どもたちは、校長室に来て、校長室に置いてある絵本を手に「読んで」と、よく言います。ぜひ、おうちでも「読み伝え」(読み聞かせ)をしてみてください。きっと子どもたちの輝く目と熱心に聞く姿に出会えるでしょう。

低 給食はおいしく、楽しみにしていますか

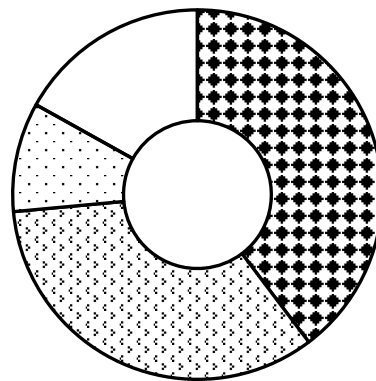
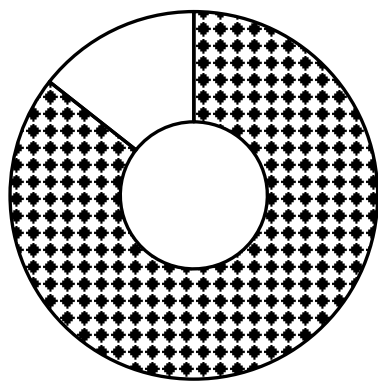
高 給食はおいしく、楽しみにしている



9割の子どもたちが、給食を楽しみにしているという高回答率です。子どもたちが美味しく食べられるように、調理員さんが、おかずの中のニンジンの型抜きをたくさんしてくれています。給食室に入ることが可能になった私は、調理の様子を実際に見て、食育の観点から子どもたちへ伝えていこうと思います。

低 自分には良いところがあると思いますか。

高 自分には良いところがあると思う。



平均8割の肯定的回答となり、この上なく、嬉しく思います。

ここ数年間、吹六っ子の1番の課題は、自己肯定感の低さでした。

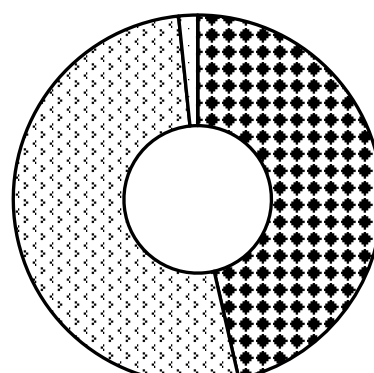
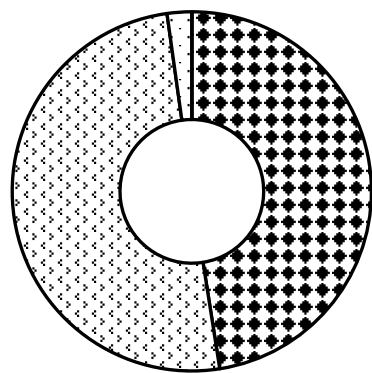
「やってもできへんし」「無理」「どうせ私なんて」という言葉をよく耳にしていました。『なんとかしたい!』と、全教職員で考え続け、子どもたちの自己肯定感を高めることに重きを置いてきました。

「ビオトープづくり」「吹六ファームづくり」「プレバト吹六」「ギネス記録大会」等、行事の企画実施もその1つです。子どもたちへの声のかけ方や注意の仕方等、日ごろの学校生活においては、特に気を配っています。

今後も、子どもたちの無限の可能性を伸ばすことができるよう、全教職員で研鑽を積んでまいります。

保 学校は保護者・地域の方々と連携・協力している

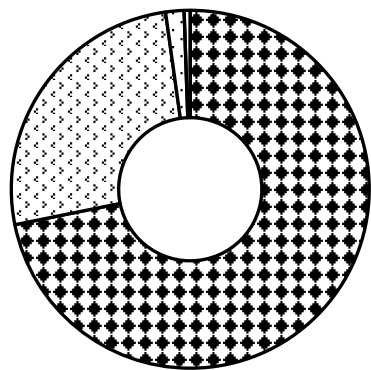
保 学校は子どもの様子や教育活動について情報提供を行っている



上記、2つの設問ともに98%の高評価をいただきました。ありがとうございます。

保護者の皆様や地域の方々との連携や、教育活動の情報提供は、私が信念をもって取り組んできたことです。「チーム吹六」「チーム吹六 大人団」という言葉で、幾度となく、協力依頼もさせていただきました。その度に、快くうけとめ、ご支援いただきました。学校は地域のもので、地域で育つ子どもたちは、保護者や地域の方々とともに、学校教育で育みたいと願っています。そして、学校教育は皆様とともに考え改善し、教師も児童も、大人も子どもも学び続けていくものでありたいと思っています。

保 学校から発信する一斉メール配信は役に立っている



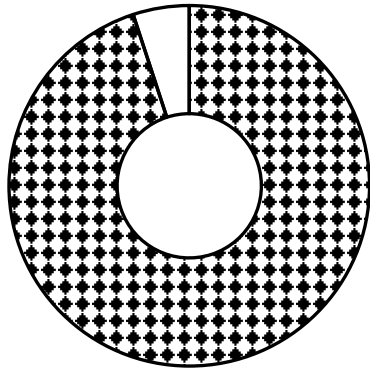
この設問も98%の肯定的回答をいただきました。

現在、本校は「さくら連絡網」と「一斉メールミマモルメ」の、両方を活用しております。いずれ、「さくら連絡網」1つに絞っていく必要があります。ただ、「一斉メールミマモルメ」の方が、スピーディーに配信できるため、外出先や宿泊行事中のメールはミマモルメを使っています。

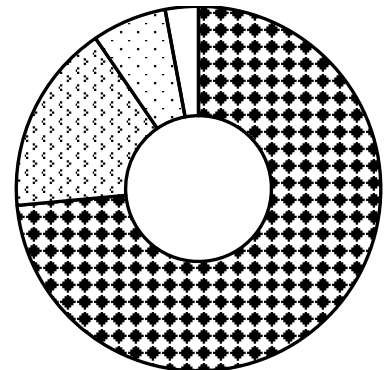
今後、ペーパーレス化も鑑み、「さくら連絡網」でのお便り添付等も視野にいれています。

地域へも配付するもの、例えば、学校だより等は、今まで通り紙媒体での配付を予定しています。

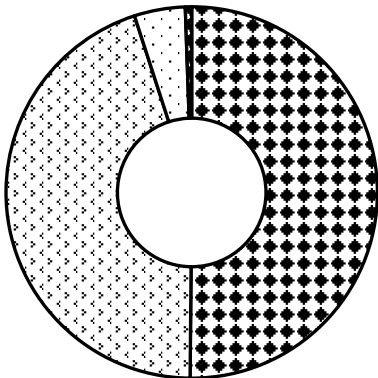
低 地震や火災などが起きたとき、どうしたらよいか
教えてもらっていますか



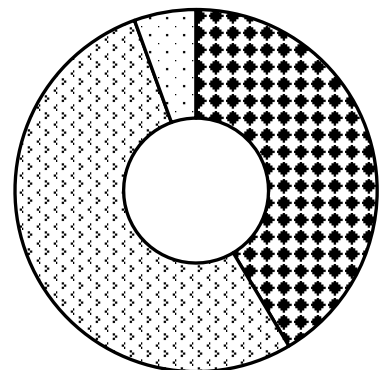
高 地震や火災などが起きたとき、どうしたらよいか
教えてもらっている



保 台風・地震、その他の緊急時の対応について
知っている。



保 学校は、安心安全な学校生活を送れるよう、
危機管理に努めている。



今年度、子どもと直接接する職員全員に、トランシーバーを配備することができました。(予算の都合上、徐々に購入し、5年間かかりました。)

吹六小は携帯緊急時(災害・不審者侵入等)に備え、トランシーバーを携帯して対応できる手立てをとっています。校外学習や宿泊学習等でも活用し、子どもたちの安全を守ることに於いて成果があります。

子どもたちのアンケート結果においても、低学年9.5割、高学年9割、保護者の皆様からは、9.5割の肯定的回答をいただいています。

今年度は、地震の避難訓練とその後起こる津波による、避難訓練を同時にしました。地震の避難訓練は吹六保育園と連携し、合同訓練を実施しました。津波がくると想定した、校舎の4階への避難は吹六っ子のみで行い、その様子を園児たちにみて学んでもらいました。

どんなときであっても、最優先されるのが、命であり、安全であると考えています。また、未曾有の災害が起きる可能性があることを、大人も子どもも充分理解する必要があると考えます。いつ・どこで・何が起こっても、まず自分の命は自分で守る力が不可欠です。いざというときにとるべき行動を、継続して育み、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう努めてまいります。

